

東京 2025 世界陸上競技選手権大会 開催基本計画



Copyright : JAPAN SPORT COUNCIL

2023（令和 5）年 11 月

一般財団法人東京 2025 世界陸上財団

一般財団法人東京 2025 世界陸上財団 会長メッセージ

2025（令和 7）年 9 月、東京に、世界の熱い視線が注がれます。単一競技の国際大会としては、世界最高峰の大会の一つである世界陸上が東京で開催されます。日本での開催は 2007 年の大阪大会以来 18 年ぶり、東京では 1991 年以来、実に 34 年ぶりの開催になります。都民、国民を始めとする多くの方々に、この世界陸上を心から楽しんでいただきたいと思います。



陸上には無限の力があります。2025 年の世界陸上では、満員の国立競技場で大声援を浴びたアスリートの躍動に胸を躍らせながら、陸上を持つ無限の力を直に感じてもらいたいと思っています。世界を代表するアスリートの熱戦は、都民、国民そして多くの方々に夢や希望をもたらすことでしょう。そして、私たちも「する・みる・支える」を通じて陸上を楽しむことで、心身の健康が高まり、生きがいが創出され、仲間との絆が深まるなど、生活をより豊かなものにすることができます。

私たちは、財団発足時に「多くの人々に夢や希望を届ける」、「今後の国際スポーツ大会のモデルを示す」という 2 つのミッションを掲げ、10 月には大会開催ビジョン（「東京ドリーム」「東京ブランド」「東京モデル」）を打ち出しました。こうしたミッション、ビジョン、そして、スポーツの根幹であるフェアネスとアスリートセンタードを基本に、大会を成功に導くための開催基本計画を策定いたしました。

World Athletics をはじめとしたステークホルダーと連携を深めていくとともに、都民、国民の皆様のご理解とご協力を得ながら、世界陸上の成功に向けて歩みを着実に進めてまいります。

2023（令和 5）年 11 月

一般財団法人東京 2025 世界陸上財団会長

尾 縣 貢

■開催基本計画について

本計画は、一般財団法人東京 2025 世界陸上財団（以下「財団」という。）が、東京 2025 世界陸上競技選手権大会（以下「大会」という。）の成功に向けて着実に準備を進めていくため策定したものであり、ミッションや大会開催ビジョン（以下「ビジョン」という。）などの基本方針、大会運営などについて記載しています。

今後、本計画を踏まえ、各分野における具体的な実施計画の検討を進めるとともに、関係者との連携・協力体制を一層強化し、そして都民、国民からの、ご理解をいただきながら大会を成功に導いてまいります。

本計画は、全 5 章で構成されています。

第 1 章 大会概要

- ・大会の開催概要などについて記載しています。

第 2 章 基本方針

- ・大会におけるミッションやビジョンなど、基本方針について記載しています。

第 3 章 大会の成功と未来へ紡ぐレガシー

- ・ミッション、ビジョン（東京ドリーム、東京ブランド、東京モデル）の実現に向けた取組や、大会後のレガシーについて記載しています。

第 4 章 組織・運営体制

- ・大会運営を支える組織体制やガバナンスなどについて記載しています。

第 5 章 大会運営

- ・大会成功に向けた主要目標、取組内容などについて記載しています。

■目次

第1章 大会概要	1
1. 世界陸上について	
2. 東京 2025 世界陸上について	
3. ウォームアップ会場・練習会場	
第2章 基本方針	4
1. ミッション	
2. ビジョン	
3. ビジョン実現に向けた取組の方向性	
4. 大会メインカラー	
第3章 大会の成功と未来へ紡ぐレガシー	9
1. 大会の成功に向けた取組	
2. 大会が未来に紡ぐレガシー	
3. 2025 年から生まれる新たな未来	
第4章 組織・運営体制	18
1. 組織体制	
2. 運営体制（ガバナンス）	
第5章 大会運営	23
1. 競技運営	
2. 会場運営	
3. 大会サービス	
4. ボランティア	
5. 広報	
6. メディア運営	
7. マーケティング	
8. チケット販売	
9. プロトコール・ホスピタリティ	

第 1 章 大会概要

第 1 章 大会概要

1. 世界陸上について

- 世界陸上は、1983 年に当時の国際陸上競技連盟（現 World Athletics。以下「WA」という。）によって創設され、フィンランドのヘルシンキで第 1 回大会が開催されました。
- WA 加盟国・地域（214 カ国・地域）から約 2,000 人の選手が出場し、単一競技の国際大会としては世界最高峰の大会の一つとされています
- 東京での世界陸上の開催は 1991 年以来 34 年ぶりとなり、日本では 2007 年の大阪大会以来 18 年ぶり 3 回目の開催になります。（同一都市での 2 回の開催はヘルシンキとならび最多、また世界陸上を 3 回開催する国は日本が初）

2. 東京 2025 世界陸上について

（1）大会名称

大会正式名称：東京 2025 世界陸上競技選手権大会

大会略称：東京 2025 世界陸上

英語正式名称：World Athletics Championships Tokyo 25

英語略称：WCH Tokyo 25

（2）主催/主管

主催：世界陸上競技連盟（World Athletics）

主管：公益財団法人日本陸上競技連盟（JAAF）

（3）開催期間

2025 年 9 月 13 日（土）～21 日（日） 9 日間

（4）会場

国立競技場ほか

（5）参加選手数（見込み）

約 2,000 人



Copyright : JAPAN SPORT COUNCIL

(6) 種目数 (予定)

49 種目 (男子 24 種目、女子 24 種目、男女混合 1 種目)

【種目一覧】

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、3000m 障害物、女子 100m ハードル、男子 110m ハードル、400m ハードル、4×100m リレー、4×400m リレー、混合 4×400m リレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、女子七種競技、男子十種競技、20km 競歩、35km 競歩、マラソン

3. ウォームアップ会場・練習会場

(1) 代々木公園陸上競技場



(2) 東京体育館陸上競技場



(3) 東京大学陸上競技場



(4) 大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場

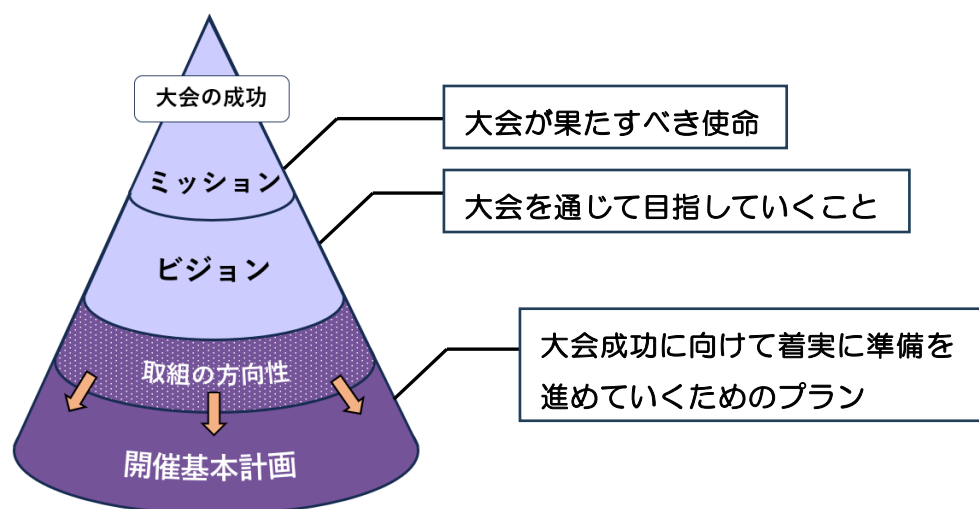


第 2 章 基本方針

第2章 基本方針

財団内の各部署が、多岐にわたる業務を円滑に遂行し、大会を成功に導くため、その基本方針となる「ミッション」「ビジョン」を定めました。今後、基本方針に基づき、財団が一丸となって大会準備を進め、大会の成功を目指してまいります。

<体系図>



1. ミッション

1. 多くの人々に夢や希望を届ける
2. 今後の国際スポーツ大会のモデルを示す

ミッションには、「陸上やスポーツの魅力と価値を世界へ広める」、「東京や日本の素晴らしさを積極的に発信する」、「スポーツの原点に立ち返り、シンプルな運営などを通じた持続可能な大会を目指す」、「スポーツの根幹であるフェアネスを体現した信頼される組織をつくる」、などの思いが込められています。

2. ビジョン

1. 東京ドリーム ～ドキドキ、ワクワク、みんなの笑顔が織りなす大会の実現～

- ・ アスリートセンタード、フェアネスの理念を前提として、満員の会場で大声援を受けたトップアスリートが己の限界に挑戦できる機会を提供することで、陸上の素晴らしさを発信し、感動・興奮を生み出します。
- ・ アスリートを中心にすべてのステークホルダーが主役として大会運営に参画し、誰もが東京大会を開催して良かった、楽しかったと思える大会、“東京ドリーム”を実現します。

2. 東京ブランド ～東京と世界を結び、東京らしさを発信～

- ・ 大会を通じて、国籍や文化などの垣根を越えて、世界中から様々な人が東京にあつまり、絆を深める中で東京と世界を結ぶきっかけを創出します。
- ・ おもてなしの心や安全・安心、食、芸術文化などの東京らしさや、先進的な科学技術、高度に発達した交通網など、活力に溢れた都市東京の魅力、“東京ブランド”を発信し、多くの人に体験してもらいます。

3. 東京モデル ～明日への希望と持続可能な未来へのステップ～

- ・ 世界最高峰の大会に直接触れることで、未来を担うこどもたちが夢や希望を育み、学び成長するとともに、みんながスポーツをより身近な存在として再発見することで、スポーツが持つ様々な価値を次の世代へ繋げていきます。
- ・ コンパクトで環境に配慮した持続可能な大会の実現や、フェアネスを体現した信頼される組織運営を通じて、未来に向けた国際スポーツの新しい世界標準、“東京モデル”を確立します。

ミッションを踏まえ大会を通じて目指していくこととして、ビジョンを「東京ドリーム」、「東京ブランド」、「東京モデル」という3つのキーワードで表現しました。



©Getty Images for World Athletics

3. ビジョン実現に向けた取組の方向性

大会の成功のためには、大会の運営の根底をなすビジョンをより具体的な形で計画・運営に反映させることが重要であると私たちは考えます。そこで、ビジョンを分野別のレベルまでブレイクダウンした取組の方向性を決めました。

第3章は、これらの取組の方向性を踏まえたものになっています。

○組織運営

- ・都民・国民の信頼を得るため、公平・公正、透明性を確保し、フェアネスを体現した組織運営を徹底する。

○大会運営

- ・今後も継続的に開催可能な国際スポーツ大会とするため、簡素な中にもみんなが感動を共有できる場として大会を成功に導く。

○競技運営

- ・すべてのアスリートが、フルスタジアムの大声援の中で、最高のパフォーマンスを発揮し、その姿を様々な形で多くの人々に届ける。

○東京の魅力発信

- ・訪日外国人をはじめ、誰もが大会だけでなく滞在中いつでも楽しめるよう、東京の魅力や素晴らしさを積極的に発信する。

○環境への配慮

- ・最新技術を活用した省エネルギーの推進や徹底したフードロスの削減などにより、環境負荷の小さいエコな大会を目指す。

○レガシー

- ・国際スポーツ大会の運営ノウハウ、こどもたちへの大会の思い出、健康増進の意識向上、ジェンダー平等などをレガシーとして残していく。

○国内各地・世界各国との連携

- ・世界各国から訪れる選手団等と各地との連携を強め、大会の魅力をみんなで共有する。

○大会経費

- ・大会準備運営の効率化などにより経費圧縮を図るとともに、収入を最大限確保することで収支均衡を図る。

4. 大会メインカラー

私たちは、大会のイメージを統一したものとするとともに、より多くの人々に認知していただくために、大会のメインカラーを設定しました。

大会メインカラーの「江戸紫（えどむらさき）」は、“東京らしさ”、“大会の気品”、“多様性”を表しています。

（１）カラーコンセプト

- 江戸で誕生した伝統色であり、従来の大会とは一線を画す“東京らしさ”や東京の美意識を表現しています。
- 「紫」は、国内外問わず、古来より気品のある色として認知されており、世界陸上の格式高さに調和した上品なイメージを演出します。
- また、「紫」は多様性や包摂性を象徴する色として用いられることもあり、国籍や文化などの垣根を越えたインクルーシブな大会であることを訴求します。

（２）メインカラーデータ



江戸紫（えどむらさき）
カラーコード
745399
Red:116
Green:83
Blue:153

第 3 章 大会の成功と未来へ紡ぐレガシー

第3章 大会の成功と未来へ紡ぐレガシー

1. 大会の成功に向けた取組

私たちは、ビジョンのなかで、大会を通じて、陸上やスポーツの魅力や感動・興奮をみんなで楽しみ、東京の魅力や伝統を世界に発信し、未来に向けた国際スポーツ大会の新しいモデルを示していくことを掲げました。ビジョンで掲げた3つの柱について、東京都が策定した「ビジョン 2025 スポーツが広げる新しいフィールド」や「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」も踏まえ、日本陸上競技連盟や東京都等を始めとする関係者と緊密に連携して以下の取組を着実に進め、ビジョンの実現を目指します。

ビジョンの実現に向けた取組を通じて、大会開催で得られるかけがえのない経験などをレガシーとして未来へと紡いでいきます。

東京ドリーム ～ドキドキ、ワクワク、みんなの笑顔が織りなす大会の実現～

- ・アスリートセンタード、フェアネスの理念を前提として、満員の会場で大声援を受けたトップアスリートが己の限界に挑戦できる機会を提供することで、陸上の素晴らしさを発信し、感動・興奮を生み出します。
- ・アスリートを中心にすべてのステークホルダーが主役として大会運営に参画し、誰もが東京大会を開催して良かった、楽しかったと思える大会、“東京ドリーム”を実現します。

（アスリートが活躍する最高の場を創出）

- ・200を超える国・地域から参加する約2,000人のアスリートが、満員の国立競技場の声援の下で、自らのベストを尽くすことができる最高の環境を提供します。
- ・自己の限界に挑戦するアスリートの姿により、人々の記憶に残る感動・興奮に溢れる大会にしていきます。

（多様な人々の大会への参画）

- 都民、国民誰もが、年齢、障害の有無にかかわらず、スポーツの素晴らしさ、多様な価値観を認めあう共生社会の大切さなどが実感できるよう、大会への参画を推進します。
- 国内外問わず多様な人々がボランティアとして参加し、一緒に大会を創り上げることで、かけがえのない経験を共有すると共に、東京 2020 大会を通じて広がったボランティア文化のさらなる発展を支援していきます。
- 未来を担うこどもたちが、大会を通じて、新たな視野を広げるとともに、スポーツの素晴らしさを感じられるよう、大会の準備・運営に参加できる機会を設けます。
- 大会の象徴となるロゴの制作を一般公募により実施するとともに、ジュニア陸上選手の大会への思いを、ロゴの募集コンセプトに反映します。

（スポーツを楽しむ機会の創出）

- 競技会場等において多くの人々がスポーツを楽しむきっかけを提供し、都民・国民が、健康増進に向け、継続的にスポーツに取り組むことができるようにしていきます。
- SNS を積極的に活用することにより、スポーツに興味を持つ人々の交流を促し、コミュニティの輪を広げていきます。



©Getty Images for World Athletics



©Getty Images for World Athletics

東京ブランド ～東京と世界を結び、東京らしさを発信～

- 大会を通じて、国籍や文化などの垣根を越えて、世界中から様々な人が東京にあつまり、絆を深める中で東京と世界を結びきっかけを創出します。
- おもてなしの心や安全・安心、食、芸術文化などの東京らしさや、先進的な科学技術、高度に発達した交通網など、活力に溢れた都市東京の魅力、“東京ブランド”を発信し、多くの人に体験してもらいます。

（街全体でのおもてなし）

- 成熟した社会インフラや大会スタッフの温かいおもてなしで、世界中から集まる選手や関係者、観客などを歓迎します。
- 大会開催を契機に、東京の芸術文化に触れ、楽しむことのできる取組を展開し、東京の魅力を体験してもらいます。また、競技会場や会場周辺、空港の装飾等を活用し、東京の魅力を発信していきます。
- 安全・安心な大会を実現するため、警備体制の確保や暑さ対策に取り組んでいます。



（戦略的なPRの実施）

- ホームページをはじめとした様々な広報媒体と連携した広報や気運醸成の取組を展開します。
- 大会ロゴを用いた広報PRを展開し、大会の魅力を効果的に発信していきます。

（世界中の人々との交流）

- 200 を超える国、地域から集まる世界中の人々との交流を通じて、東京や日本の多彩な魅力を発信し、日本全体での気運醸成を図ります。

（先進的な技術の活用）

- 競技会場等で、デジタル技術や環境技術を紹介するなど、大会を通じて東京の先進技術を国内外に発信します。



東京モデル ～明日への希望と持続可能な未来へのステップ～

- 世界最高峰の大会に直接触れることで、未来を担うこどもたちが夢や希望を育み、学び成長するとともに、みんながスポーツをより身近な存在として再発見することで、スポーツが持つ様々な価値を次の世代へ繋げていきます。
- コンパクトで環境に配慮した持続可能な大会の実現や、フェアネスを体現した信頼される組織運営を通じて、未来に向けた国際スポーツの新しい世界標準、“東京モデル”を確立します。

（こどもたちへの観戦機会等の提供）

- 都内や東日本大震災の被災地のこどもたちに大会を観戦する機会を提供し、限界に挑戦するアスリートの姿を間近に見ることで、夢や希望を育む契機にしています。
- こどもたちと陸上アスリート等との交流や競技体験、競技についての学び等を通じて、スポーツの素晴らしさに触れ、世界の人々をより身近に感じられる機会を提供し、こどもの学び・成長を支援します。



提供：日本陸上競技連盟



（環境負荷の低減）

- 大会運営を通じて、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの活用や環境に配慮した輸送方法・車両の導入等の取組を国内外に発信することで、脱炭素社会の実現に寄与していきます。
- 使い捨てプラスチックの削減や、備品等の調達においてレンタルやリースを活用するなど、3Rを推進し環境負荷の少ない大会を目指します。



（フェアネスを体現した組織運営）

- 「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を踏まえ、スポーツの根幹であるフェアネスを体現した、都民・国民の信頼を得ることができる組織運営を行います。

2. 大会が未来に紡ぐレガシー

大会の成功に向けた取組を通じて得られる以下のレガシーを未来に繋げていきます。

（スポーツ文化の広がり）

世界最高水準の陸上競技に直接触れることにより、スポーツが持つ素晴らしい価値を認識、共有し、スポーツの裾野の拡大や健康増進の意識向上に繋がります。



（次世代への価値の継承）

競技観戦や競技体験を通じて、未来を担うこどもたちが陸上競技を身近に感じ、スポーツを始めるきっかけに繋げていくとともに、フェアネスなどスポーツの持つ価値を次世代に継承していきます。



提供：日本陸上競技連盟

（ボランティア文化の一層の発展）

大会運営に積極的な関わり合いをもち、ともに楽しみたいという方々の気持ちを尊重し、様々な場面における活動機会を提供することで、みんなで大会を創り上げ、そうした経験が自己実現に繋がるようなボランティア文化の一層の発展を図ります。



©Getty Images for World Athletics

（未来につなぐ世界との絆）

心のこもったおもてなしや伝統と革新が織りなす東京や日本の魅力発信と、国内各地と訪日外国人との繋がりのきっかけづくりや交流により、東京及び日本のプレゼンス向上を図り、世界との強固な絆を未来に引継いでいきます。



（環境配慮行動の気運醸成）

廃棄物の分別の徹底や発生の抑制、気候変動対策など、環境負荷の少ない大会運営に取り組むとともに、その情報発信を通じて、環境に対する意識を啓発し、気運を高めます。



（持続可能な大会モデル）

フェアネスを体現した信頼される組織運営やコンパクトで最適化された大会運営を通じて、今後も継続的に開催可能な国際スポーツ大会のモデルを構築します。



3. 2025 年から生まれる新たな未来

陸上をはじめとするスポーツは、年齢や国籍、障害の有無等にかかわらず、みんなが一緒に楽しむことができるものであり、誰にとっても開かれたものです。

2025 年は、世界陸上だけではなく、東京 2025 デフリンピックも開催されます。都民、国民からのスポーツへの注目度が高まるこの機会を捉えて、両大会の魅力を同時に発信するなど、広報や気運醸成の取組を連携して展開することで、両大会のビジョンやメッセージをより多くの人たちに届けていきます。さらに、2021 年に東京で開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーも、しっかりと引継ぎ、お互いを尊重し、支え合う共生社会の実現を目指していきます。

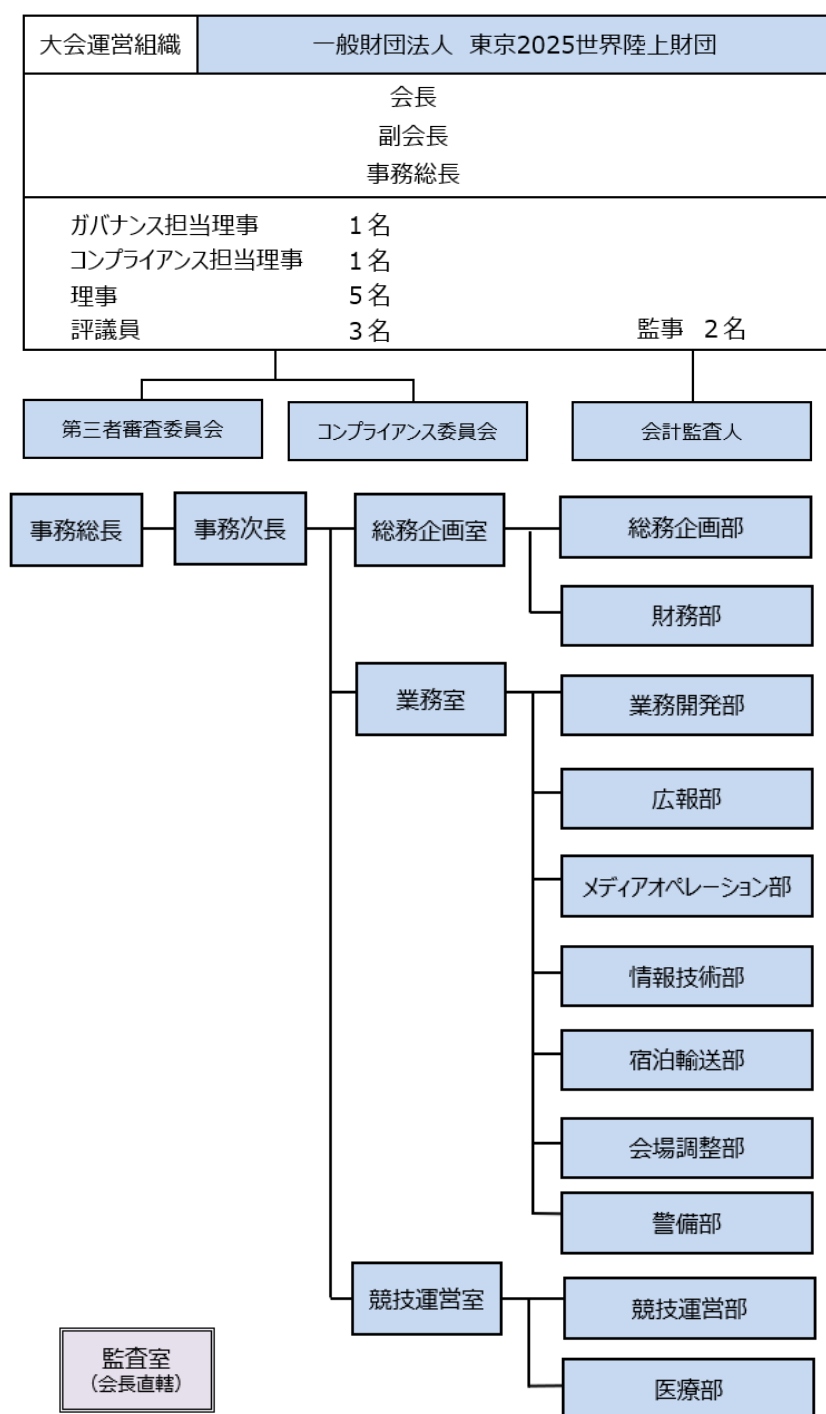


第 4 章 組織・運営体制

第4章 組織・運営体制

1. 組織体制

(1) 財団組織図



※2023(令和5)年7月4日
財団設立時点

（２） 人員体制

財団の構成員は、地方公共団体や競技団体等からの派遣・出向職員、そして財団により今後採用を予定する直接雇用職員など、多様なバックグラウンドを有しており、属性・契約形態も多岐にわたることが想定されます。こうした状況においても、公平・公正、透明性を確保し、フェアネスを体現した組織運営を徹底し、コンプライアンスの確保、ガバナンスの強化等に最大限努めていきます。

引き続き、大会運営に携わる必要な人材の採用・配置等を適切かつ計画的に行うとともに、必要な教育・研修等を実施し、大会を成功に導くことのできる人員体制を整備してまいります。

① 職員の採用と人事管理について

財団職員としての行動規範等に理解がある、開催準備・大会運営に必要な人材を適切なプロセスにより確保し、適材適所に配置及び管理をすることで、円滑な大会運営を目指します。

② 教育・人材育成について

すべての役職員等がコンプライアンス・ガバナンスへの理解を深めるとともに、業務を進めるうえでこれを徹底してまいります。また、将来を見据えたレガシーとしての人的資本の育成を見据え、大会成功に向けて職員個人の資質向上を図ります。



2. 運営体制（ガバナンス）

（１）財団のガバナンス確保について

大会が都民・国民に心から受け入れられるものとするため、「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」及び「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を踏まえて適切なガバナンス体制を確保し、スポーツのフェアネスを体現した信頼される組織の構築に向けて、以下の取組を行います。

① 役員等の適切な選任

理事等が組織全体の運営改善に不断に取り組むとともに、その権限を適切に行使できるよう体制整備を行うため、有識者を含む役員等選考委員会の設置や選任方針の策定及び選任理由等の公表を行うとともに、役員等の行動規範の策定及び就任時の誓約書の提出並びに行動規範・誓約書の公表を実施します。

② コンプライアンスの確保

必要な体制整備に加え、役職員等のコンプライアンスに係る知識の習得や意識啓発を行うため、コンプライアンス委員会の設置や内部及び外部通報窓口の設置等の体制整備を行うとともに、役職員等への継続的なコンプライアンス教育の実施や危機管理及び不祥事対応体制並びに懲罰制度の運用を行います。

③ 内部統制・外部チェック

公正妥当と認められる会計の原則に則った会計処理を行うため、収入・支出のプロセス等を事前及び事後に監督する契約・調達委員会等を設置するとともに、監査室を中心として監事・会計監査人が連携した「三様監査体制」を構築し、リスクアプローチ手法による監査を実施します。

④ 利益相反に伴う問題の防止

利益相反を適切に管理するため、役職員等による利益相反に関する自己申告書やチェックシートの提出など、利益相反の該当性を適切にチェックいたします。また、第三者審査委員会での審査を通じて、利益相反取引等の実施や人材の採用等に係る適正性等を担保してまいります。

⑤ 情報公開

都民・国民との信頼関係を醸成するため、ホームページ等において、法定事項に加え、組織の重要な決定や世の中の関心の高い事項を積極的に発信するとともに、東京都の条例に準じた情報公開制度の運用を行います。また、第三者審査委員会での審査を通じて、審査請求に関する開示決定の適正性等を担保してまいります。



第 5 章 大会運営

第5章 大会運営

第4章に記載したガバナンス・コンプライアンスを徹底した組織・運営体制の下、財団一丸となって大会の成功に向けた運営を行っていきます。

1. 競技運営

(1) 競技運営

アスリートが競技において安全かつ最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、アスリートセンタードに基づき、競技環境を整備し、感動と興奮で会場を包みま

す。

【目標達成に向けた取組】

- 競技会場、練習会場等のアスリートの競技環境や、競技スケジュール等について、適切かつ効率的に準備
- アスリート及び観客が一体となって競技の感動・興奮を共有できる大会運営を計画・実施
- 各国の陸上競技連盟への適時適切な情報共有や公正で一貫性のあるサービスを提供

(2) 医療、アンチ・ドーピング

適切な医療サービス体制を構築し、アスリート等が健康で安全に大会へ参加できる環境を提供するとともに、アンチ・ドーピングプログラムの実施によりアスリートにフェアネスの理念に基づいたクリーンな戦いの舞台を提供します。

【目標達成に向けた取組】

- 外部医療機関等と連携しながら、すべてのステークホルダーに対し、適切な医療サービスを提供
- 世界アンチ・ドーピング規程および国際基準に基づくドーピング検査の実施

2. 会場運営

(1) 会場管理

陸上の素晴らしさや感動と興奮を会場から世界へ届けるため、アスリートセンタードの視点に立ち、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮することができる会場運営を目指すとともに、すべての観客をおもてなしの心で迎えます。

【目標達成に向けた取組】

- 大会関係者のニーズや競技スケジュール等を踏まえた最適な会場マップや動線計画の策定及び安全かつ円滑な会場運営の実施
- 競技用備品や放送用機材を適切に配置するための効率的な物流サービス、輸出入支援を実施
- 分別・リサイクルの徹底を通じた環境に配慮した大会の実現
- わかりやすい誘導表示や配慮が必要な方々への支援を通じた効果的かつ効率的な観客誘導
- ウェブサイトやSNSなどを通じた世界を視野に入れた迅速な情報伝達

(2) 施設設営等

大会を確実に運営できるよう、必要な仮設施設等を効率的に整備するとともに、大会に必要なエネルギーを安定的かつ効率的に供給します。

また、アスリート、大会関係者、観客、放送関係者、プレス及びスタッフ等などに対して、快適かつ信頼性の高いテクノロジーを提供し、大会の円滑な運営を実現するとともに、都民・国民に感動体験を共有する機会を提供します。

【目標達成に向けた取組】

- 会場における必要な仮設施設等の設置、維持管理、撤去計画の策定及び実施
- 会場のエネルギー需要とサービスレベルに応じた安定的なエネルギーの供給
- 大会運営に必要なシステム関連機器等の調達・管理、セキュリティを確保したネットワークの構築

3. 大会サービス

(1) 出入国

日本を訪れる世界中のアスリートや大会関係者、観客などに対して、円滑で快適な出入国サービスを提供します。

【目標達成に向けた取組】

- 大会関係者が円滑に出入国するためのサービスの提供
- ビザを要する関係者に対する円滑な入国支援

(2) 宿泊

アスリートセンタードの視点に基づき、アスリートや大会関係者のニーズを反映させることに加え、コンパクトかつ適切な宿泊施設及び付随するサービスを提供します。

【目標達成に向けた取組】

- アスリートが各会場まで約 30 分以内にアクセスできる場所に宿泊施設を確保
- その他の大会関係者の宿泊施設についても、大規模なホテルや競技会場周辺のホテルを確保し、より効果的・効率的な大会運営を実現
- 宿泊施設内にウェルカムデスクを設置し、大会に関連する情報を提供

(3) 輸送

大会関係者に対して、安全かつ迅速で円滑な移動を可能とする輸送サービスを提供するとともに、環境に配慮したサービス提供を検討します。

【目標達成に向けた取組】

- 迅速、安全かつ円滑な輸送体制の確保に向けた効率的な輸送計画の策定
- 輸送サービスの提供に際しては、環境に配慮した輸送方法の導入を検討

(4) 警備

アスリートや大会関係者、観客などに対して、大会の安全を提供します。

【目標達成に向けた取組】

- 安全の確保に向けたセキュリティオペレーション計画の策定
- メイン会場、ウォームアップ会場、練習会場など、それぞれのリスクに応じた効果的な警備の実施

(5) 飲食

環境や多様性にも配慮した適切な飲食サービスを提供します。

【目標達成に向けた取組】

- 大会関係者等に対する適切な飲食サービスを提供
- 必要食数の精査や提供の仕方の工夫等を通じてフードロスを削減
- 多様な食習慣に配慮した飲食を提供

4. ボランティア

ボランティアの参加は、大会をみんなで創り上げていくために必要不可欠な存在だと私たちは考えています。大会を成功に導くうえで、様々なボランティアが、大会のあらゆる場面で活躍することが重要です。

大会運営に積極的な関わり合いをもち、ともに楽しみたいという方々の気持ちを尊重し、様々な場面における活動機会を提供することで、みんなで大会を創り上げ、そうした経験が自己実現に繋がるよう取り組んでいきます。

そして、東京 2020 大会を契機に浸透しつつあるボランティア文化の一層の発展を図り、レガシーとして継承していきます。

【目標達成に向けた取組】

- 適切な選考及び採用の実施
- 充実した活動となるような研修・交流等の機会提供



©Getty Images for World Athletics



©Getty Images for World Athletics

5. 広報

広報活動を通じて大会の価値を広く世界へ発信し、大会を成功へ導いていきます。また、戦略的な広報により、国内外の人々が様々な形で大会に参加することを促し、スポーツの力を活用した大会レガシーの最大化と次世代への継承に貢献します。

【目標達成に向けた取組】

- フルスタジアムの実現に向けた広報戦略の策定
- ウェブサイトや SNS 等による情報発信及び PR 活動の実施

6. メディア運営

ブロードキャスト、プレスやカメラに対して円滑にサービスを提供するためのオペレーション計画を策定します。大会の報道露出を高め、世界陸上の価値を最大化するため、適切な取材環境及びメディアオペレーションに関するサービスを提供します。

【目標達成に向けた取組】

- ブロードキャスト、プレスやカメラのオペレーションの調整
- メディアセンター、ミックスゾーン、記者会見室、インタビューエリアや関連するロジスティックスなどを含む運営計画の策定
- メディアオペレーションに必要な設備などの調達



7. マーケティング

(1) ブランド

大会ビジョンを体現する、一貫性のあるブランドアイデンティティ、ルックを創り出すとともに、大会の素晴らしさを世界中に披露し、世界陸上のブランド価値を高めていきます。

【目標達成に向けた取組】

- ブランドアイデンティティ、ロゴ、グラフィックス、カラーパレット、スタイルガイド等を策定
- 大会ロゴなどブランド資産の管理
- 会場などの装飾の計画・実施
- メダルのデザイン制作

(2) コマーシャルオペレーション

スポンサーシップ（企業協賛）を通じて、大会運営に必要な収入を確保するとともに、企業・団体や人々を大会に結び付け、陸上、スポーツの楽しさ、素晴らしさを広めていきます。また、スポンサーが多様な活動を行うための場所と機会を提供・創出し、その活動を支援することで、みんなが参画し、みんなでつくる大会を実現します。

【目標達成に向けた取組】

- スポンサーシップ販売方針の策定
- スポンサーの獲得
- スポンサーの権利の管理

（３）権利保護

財団が開発した大会のロゴ、ルック等、世界陸上の知的財産を保護します。また、大会のブランド価値を更に高めていくために、WA スポンサー、放送権者、イベントスポンサー、ライセンサー等に許諾した知的財産の使用権利などを保護します。

【目標達成に向けた取組】

- 権利者保護プログラム、各種マニュアルの策定
- 便乗広告や偽造商品の事前防止や、発生時の対処方法等の検討
- クリーンベニューの推進

８．チケット販売

みんなに大会を直接体験できる機会を提供し、観客とアスリートが一体となった会場を創出するとともに、販売収益を通じて、財団の収入を確保します。また、こどもにより多くの大会観戦の機会等を提供することで、大会への思い出を未来に繋げていきます。

【目標達成に向けた取組】

- チケットिंग販売計画の策定、価格の設定
- 多くのこどもの観戦機会の確保に向けた取組の実施
- 戦略的な国内外販売の展開

９．プロトコール・ホスピタリティ

大会関係者に対して東京の魅力を発信し、東京と世界各国との絆を深めていきます。

【目標達成に向けた取組】

- 各種会議などの着実な実施
- ホスピタリティ計画に基づく来賓への適切な接遇